

【平成 25 年度・後期学期・ミクロ経済学 I・課題 2】

☆ 平成 25 年 11 月 12 日または 11 月 13 日講義開始時提出

【問 1】完全競争市場の過程について、5 つあげ、これらの反例となるような市場や市場慣行などを挙げなさい。(反例については講義内容に左右される必要はありません。自分の経験やそれまでの知識などを踏まえて解答してください。)

【問 2】日本 (J) と中国 (C) が繊維製品(F 財)と自動車(A 財)の 2 財を以下の労働力のみで生産する場合について答えなさい。

労働力 1 単位で生産できる財の単位数

	F 財	A 財
日本	120	600
中国	100	300

- (1) A 財について、絶対優位性がある国はどちらですか? それはどうしてですか?
- (2) F 財について、絶対優位性がある国はどちらですか? それはどうしてですか?
- (3) A 財について、比較優位性がある国はどちらですか? それはどうしてですか?
- (4) F 財について、比較優位性がある国はどちらですか? それはどうしてですか?
- (5) 日本と中国はそれぞれどちらの生産に特化するべきですか?
- (6) 交易条件とは何か述べなさい。また、(5) で示したように特化した場合、交易によって双方が利益を得られる交易条件の 1 つを A 財 1 単位について比として表しなさい。

【問 3】生産可能曲線について答えなさい。

(ア) 生産可能曲線とは、経済のどのような状態を説明するものか述べなさい。

(イ) 次のような事象について、生産可能曲線や生産点がどのように表されるか、各問ごとに生産可能曲線を描いて答えなさい。ただし、生産可能曲線は食品である Butter と武器である Gun の 2 財の間の生産のトレードオフを表すものとします。

- A) ある生産点 A では、この経済にある資源は効率的に利用されておらず、雇用されていない余剰な生産要素が存在する。
- B) ある生産点 B では、この経済の資源は効率的に利用されており、Gun と Butter 両方が生産されている。
- C) ある生産点 C では、経済の資源は効率的に利用されているが、Gun のみに生産が特化しており、Butter は生産されていない。
- D) ある生産点 D で示される Gun と Butter の生産の組合せは、この経済にある資源量では生産が不可能である。
- E) 新しい生産可能曲線 E の下では、Butter の生産技術が向上して、同量の資源でより多くの Butter が生産できるようになった。
- F) 新しい生産可能曲線 F の下では、災害により、資源全体の量が減少してしまった。